

SmartPlant Review コンカレントライセンスの設定方法

SmartPlant Review (SPR) 4.0 では、コンカレントライセンス管理を行うことができます。これは、サーバ上に複数のライセンスを登録しておき、各ワークステーション上で SPR を起動する際には、サーバに登録されたライセンスを使用するものです。同時に起動できる SPR のプロセス数は、サーバに登録されたライセンス数に制限されます。これにより、ライセンスの可用性を高めることができます。

1. サーバ上でのライセンスの登録

サーバ上にライセンス情報を記録するフォルダを新規作成し、共有を行います。このフォルダ内にテキストドキュメントを新規作成し、以下のようにライセンス情報を記入します。

```
シリアルナンバー,ライセンスナンバー,"ユーザ名","会社名","オプションのコメント"
```

この時、各項目はコンマで区切ります。ただし、最後の"オプションのコメント"の前にはセミコロンを使用します。シリアルナンバーには、ライセンスシートに書かれた SPR のシリアルナンバー(14 桁)を記入します。ライセンスナンバーには、SPR の場合、シリアルナンバーと同じ 14 桁の数字を記入します。"ユーザ名"、"会社名"、"オプションのコメント"は、それぞれダブルクォーテーション文字で囲みます。これを、ライセンスシートに書かれたライセンス数の分だけ繰り返します。

```
xxxxxxxxxxxxxxxx,xxxxxxxxxxxxxxxx,"PBS Division","MUTOH Industries Ltd.,"SPR 4.0 BUNDLE"  
yyyyyyyyyyyyyy,yyyyyyyyyyyyyy,"PBS Division","MUTOH Industries Ltd.,"SPR 4.0 BUNDLE"  
zzzzzzzzzzzzzz,zzzzzzzzzzzzzz,"PBS Division","MUTOH Industries Ltd.,"SPR 4.0"
```

上記の例で、実際には xxxxxxxxxxxxxxxx 等の部分にライセンスシート上のシリアルナンバーを記入します。ライセンスサーバの名前を SERVER01、共有名を SPR_POOL、ライセンスを記録したファイル名を SPR_LICS.txt とすると、このファイルは UNC (Windows ネットワーク上でのファイル名の指定方法)を用いて以下のように表すことができます。

```
\\SERVER01\SPR_POOL\SPR_LICS.txt
```

このライセンスファイルには、異なる種類の製品(SPR 単体と BUNDLE 版等)のライセンスをまとめて登録しておくことも可能です。

2. ライセンスサーバ上でのセキュリティ設定

コンカレントライセンスの設定を行って SPR を起動すると、上記の \\SERVER01\SPR_POOL フォルダには、ライセンス管理用の 0 バイトのファイルが作成されます。このため、\\SERVER01\SPR_POOL フォルダには、SPR を利用する各ワークステーションおよび各ユーザから、ネットワークを通して書き込みのアクセスが行えるように設定しておく必要があります。なお、\\SERVER01\SPR_POOL\SPR_LICS.txt ファイルに対しては、読み込みのアクセス権のみ必要となります。

3. SPR ソフトウェアのインストール

SPR を利用する各ワークステーション上で、SPR ソフトウェアのインストールを行います。この時には、CD のケースに書かれたシリアルナンバーを使用します。Construction/API 等のアドオンモジュールを使用する場合には、それぞれのシリアルナンバーを入力します。なお、ライセンスサーバには、SPR ソフトウェアのインストールを行う必要はありません。

4. 環境変数の設定

SPR を利用する各ワークステーション上で、以下の環境変数の設定を行います。

CLnnnnnn_LICENSEPOOL	サーバ上に作成したライセンスファイルの名前を、UNC により指定します。
CLnnnnnn_LICENSELOG	ライセンスの使用状況を記録するログファイルの名前を、UNC により指定します。この環境変数が設定されていない場合、ライセンス使用状況の記録は行われません。
CLnnnnnn_NOLICENSEGRACE	使用可能なライセンスがサーバ上に存在しなかった場合のアプリケーションの動作を指定します。この環境変数が設定されている場合、使用可能なライセンスが存在しなければ、SPR を起動することはできません。この環境変数が設定されていない場合、使用可能なライセンスが存在しなければ、警告のメッセージが表示されます。
CLnnnnnn_MACHINEID	ログファイルに記録されるマシンの情報を指定します。この環境変数が設定されていない場合、ログファイル中にはライセンスを使用したマシンの情報は含まれません。

上記の環境変数名の nnnnnn の部分には、各 SPR 製品のインデックス番号(シリアルナンバー

の末尾 6 桁の数字)を指定します。このインデックス番号は、SPR 単体と BUNDLE 版とでは異なるため、注意が必要です。なお、インデックス番号を指定せず、CL_LICENSEPOOL 等の環境変数名を使用することも可能です。この場合、コンカレントライセンス管理をサポートした全ての Intergraph 製品に対して、同じ設定が使用されます。

Windows NT 上で設定を行う場合は、Administrator 等のユーザでログオンし、コントロールパネル システムの”環境”タブにより、システム環境変数として登録します。

(設定例)

```
CL_LICENSEPOOL = \\SERVER01\SPR_POOL\SPR_LICS.txt
```

```
CL_LICENSELOG = \\SERVER01\SPR_POOL\SPR_LICS.log
```

```
CL_NOLICENSEGRACE = Yes
```

```
CL_MACHINEID = CLIENT01
```